



花と風車と運河の国

オランダの首都 アムステルダムから



アムステルダム日本人学校 伊藤 彬

オランダの国土の大部分は低地で、国土の4分の1が海面下にあります。面積は日本の九州ほどですが、農産物の輸出額は世界トップクラスの大国です。特に、花や酪農品が有名で、オランダといえばチューリップを思い浮かべる方も多いでしょう。土地は、ほとんど平らで、日本で見られるような山は、見ることはできません。「世界は神が造ったが、オランダはオランダ人が造った」という言葉があります。オランダ人は沼地や湖の水を、風車や蒸気機関の力で海へ流すことで干拓を進めてきました。オランダは風車が有名ですが、現在も多く場所で見るができます。

オランダの首都であり、産業の中心都市であるアムステルダムは、中央駅を中心に多くの運河が広がっています。かつて東インド会社の本拠地が置かれ、17世紀に世界貿易の中心として発展した当時の面影が、街の至る所に残っています。また、オランダの家は、れんが造りの家が多く、アムステルダムの旧市街地には何百年も前に建てられた家々が、運河沿いにそれぞれの時代の特徴を残しながら、今も美しく立ち並んでいます。



アムステルダムの市街地



在オランダ日本人合同運動会

アムステルダム日本人学校は、アムステルダムの西部にあります。学校の大きな行事として、在オランダ日本人合同運動会があります。ロッテルダム日本人学校やオランダ各地の補習授業校の児童生徒、現地校に通っている日本人の児童生徒など、観客を含めて約2000人が、アムステルダム日本人学校の校庭に集まります。校庭には仮設スタンドが設けられ、一夜にして立派な陸上競技場に変貌します。それぞれの学校のTシャツに身を包んだ生徒たちが、競いながらも親睦を図る場となっています。

生徒が力を入れているのが学習発表会です。発表の内容は、生徒がアイデアを出し合って創り上げています。その中で、中学部では、90分の枠の中で、「職場体験」「英会話」「劇と合唱」を発表しました。また、学校の大きな行事である林間学校は、オランダならではの自然に触れたり、街の歴史や美術を学んだりする機会となっています。

他にも、オランダ国内にある現地校との交流会が年2回行われ、異文化交流の場が設けられているなど、海外の日本人学校ならではの活動が多々あります。ここでしかできない多くの経験をさせていただいていることに感謝し、今後も多くのことを学んでいきたいと思っています。



運河沿いにあるアムステルダム日本人学校